

富谷市の現状と 市民ニーズ・課題

第1章

はじめに

1. 総合計画策定の趣旨

本市は、平成 28 年度を初年度とする「富谷市総合計画」を策定し、令和 7 年度を目標年次として各種施策を展開し、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてきました。この間にも、本市を取り巻く社会経済情勢は、急激に変化しています。

平成 26 年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、本市においても、平成 27 年に「富谷市地方創生総合戦略」、令和 3 年に「第 2 次富谷市地方創生総合戦略」を取りまとめ、地方創生の理念と富谷市総合計画において目標とする将来像を重ね合わせ、有機的な連携を図り、積極的な取組を進めています。

また、本市では、令和 8 年度に市制施行から 10 年という次のステージに向けて、市民・地域・行政が一体となって更なる取組を進めていくため、新たな将来ビジョンを掲げて進めるまちづくりの方向性を市民の皆様と共有していくことが必要となっています。

今後、社会情勢等が大きく変化していく中においても、必要な市民サービスを安定的に供給し、持続可能なまちづくりを実現するためには、中長期的な視点と時代の変化に即応する短期的な視点を併せ持った計画の策定が必要となることから、これまでの「富谷市総合計画」「第 2 次富谷市地方創生総合戦略」に掲げる理念を継承・統合し、新たなビジョンとなる「第 2 次富谷市総合計画」を策定することとしました。

2.第1次総合計画から大事にしているまちづくりのキーワード

本市では、第1次総合計画から次のことをまちづくりのキーワードとして大事にしています。

◇田園都市の実現

田園都市とは、イギリスの都市計画家「エベネザー・ハワード」が1902年の著書「Garden Cities of Tomorrow（明日の田園都市）」で描いた都市像「Garden City」がルーツと言われています。19世紀の産業革命後、人口集中によって環境が悪化したロンドンの都市問題を憂いて提唱した思想で、従来の都市機能と自然豊かな田園の長所を備えた、自然と社会的機能の融合によって都市問題の解決を目指すものです。

国では、デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら地方の社会課題の解決や魅力向上を実現し、地方の活性化を加速することを目的としており、都市機能と田園の長所を融合したまちづくりを進めることが期待されています。

本市は、49.18 km²というコンパクトな市域の中に、古くからの田園地帯や森林が広がる地域がある一方で、南部には新興住宅地や商業地が広がっています。豊かな自然の中に、生活環境の整った良好な市街地を形成することで、多くの人々が豊かに暮らせる、田園都市構造を形成してきました。これからも「住みたくなるまち日本一」の実現に向け、このような田園都市構造をさらに発展させ、社会生活と自然の調和が図れる持続可能な田園都市を目指します。



2.第1次総合計画から大事にしているまちづくりのキーワード

◇子どもにやさしいまちづくりの推進

富谷市は、平成 29 年 1 月に日本ユニセフ子どもにやさしいまちづくりの作業部会に参加して以来、「こどもにやさしいまちとは、どういうものか？」を考え、平成 30 年 5 月には全庁的な取組として「富谷市子どもにやさしいまちづくり推進庁内連携会議」を設置しました。この連携会議では「富谷市としてのこどもにやさしいまち」について議論を続け、こどもの権利が守られていることが一番大切だと考え、平成 30 年 11 月に「子どもの権利条約」の「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」に基づいた 5 つの柱からなる「富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言」をしました。また、令和 3 年 12 月には、国内で初めて子どもにやさしいまちづくり実践自治体として日本ユニセフ協会から承認を受けました。

具体的な取組として、推進庁内連携会議を通して、職員一人一人が「子どもにやさしいまちづくり」について考え、職員の意識醸成を行ってきました。また、「わくわく子どもミーティング」や「生徒会サミット」、「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催など、こどもたちの意見を行政に反映することを心掛けています。ほかにも、地域住民やこどもに関わる団体が主体となって、「子どもにやさしいまちづくり」を実現する取組が行われています。

「富谷市子どもにやさしいまちづくり」は、宣言の啓発の域にとどまることなく、こどもに関わる部署の施策・事業の継続と、これまで関連性が低いと捉えている部署においても、子どもにやさしいまちづくりの視点を取り入れていく意識の醸成が図れるよう、全庁的に推進しています。



3.計画の構成と期間

「総合計画」は、基本構想、基本計画及び実施計画から構成されており、福祉、教育、産業、環境、建設など地方自治体が行うすべての分野にわたる計画の指針となるもので、今後目指すまちづくりの方向性や、それを実現するための施策などを定める、市のまちづくりにおける最上位の重要な計画です。「富谷市をこんなまちにしたい」という思いを「目指す将来像」として描き、そのために何をすればいいのかを定めている計画が総合計画です。

◇基本構想

期間：令和 8（2026）年度～令和 17（2035）年度（10 年間）

市のまちづくりの将来像を示し、その実現に向けた基本方針などを定めたもので、実現に向けた取組の方向性を指し示す基本計画の指針となるものです。

長期的な視点に立ったまちづくりを進めていく必要性から、計画期間は 10 年間としています。

◇基本計画

期間：【前期】令和 8（2026）年度～令和 12（2030）年度（5 年間）

期間：【後期】令和 13（2031）年度～令和 17（2035）年度（5 年間）

基本構想に掲げる「市の将来像」を実現するための施策体系や施策の展開方針、施策達成目標などを定めたもので、個別具体の事業を示す実施計画の指針となるものです。

計画期間は、中期的な観点から達成度を検証し、計画の見直しを含めて基本構想の実現を目指していくものとして、前期計画 5 年間、後期計画 5 年間としています。

◇実施計画

期間：毎年度策定

実施計画は、財政計画との整合性を図りながら、基本計画で示した施策の目的を達成するために必要な事業を具体的に示すものです。

計画の期間は 3 年とし、毎年、社会経済情勢の変化及び財政状況を勘案しながらローリング方式※により策定します。

※ローリング方式

計画の練り直しや見直しのことで、計画の実施過程において、計画と実績との間に食い違いが生じていないかどうかを毎年チェックし、違いがある場合は実績に合わせて計画の再編を行い、目標の達成を図る方式のことです。

◇第 3 次富谷市地方創生総合戦略

期間：令和 8（2026）年度～令和 12（2030）年度（5 年間）

富谷市総合計画と富谷市地方創生総合戦略については、より効率的で実効性のある市政運営の指針になる計画とするため一体化し、「第 3 次富谷市地方創生総合戦略」は第 2 次富谷市総合計画前期基本計画の重点施策として位置づけます。

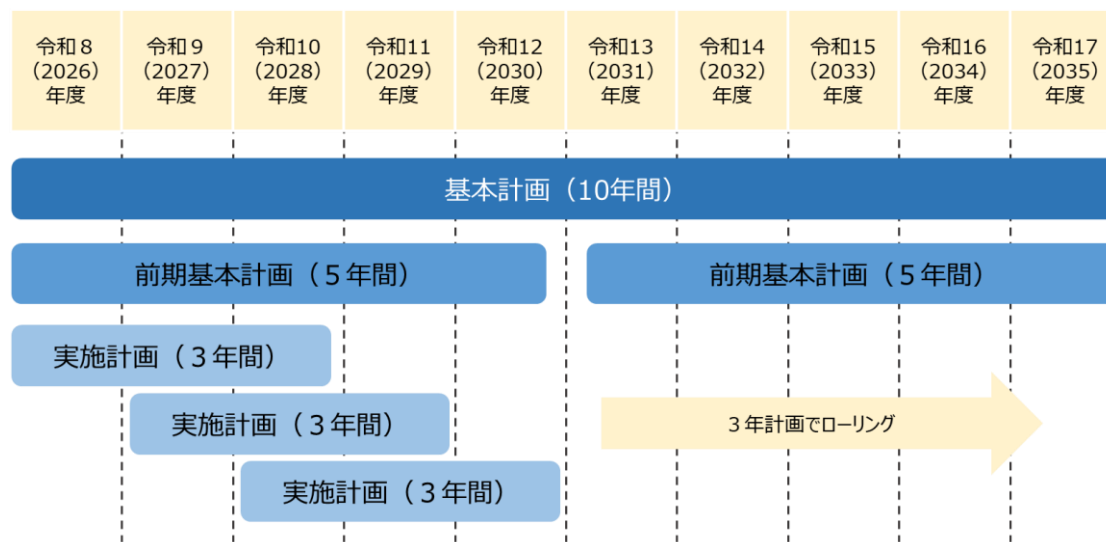
「まち・ひと・しごと創生法」の趣旨に即し、前期基本計画の中でも特に人口増加に向けて即効性のある効果的な事業を抽出し、明確な達成目標を定めながら重点的・戦略的に実施し、人口増加に向けた着実な発展を目指します。

3.計画の構成と期間

■計画の構成



■計画の期間



■進行管理

10年にわたる計画期間において、年次や時期における経済・財政事情に対応しつつ、施策や事業を効率的かつ効果的に実施し、その実施状況を把握して市民に情報公開していくための適切な進行管理を図り、施策や事業の目標達成度と効果について定期的に検証するとともに、適切に計画に反映していくこととします。

今後、社会経済情勢の変化等により、総合計画の改定が必要な場合には弾力的に見直していくこととします。

2. 総合計画の全体像

◇持続可能な開発目標（SDGs）の推進

SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略であり、2015年に国際連合で採択された世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて、2030年を年限とする17のゴールと169のターゲット（ゴールごとの詳細な方向性）から構成されます。

SDGsの特徴として、先進国、途上国を問わず世界の各国が目指すものであり、市民や事業者など、多様な主体の参画が求められています。自治体や企業、そして市民一人ひとりがSDGsの達成に向けて取り組むことが、「誰一人取り残さない」持続可能な地域を創り出すことにつながっていきます。

本市が基本構想に掲げる将来像「住みたくなるまち日本一」や基本目標は、市民や事業者、行政などの関係者が共にまちづくりに取り組むことによって実現されるものであり、これらの取組こそがSDGs達成に貢献するものと考えています。

なお、前期基本計画では、施策分野ごとに関連するSDGsゴールを記載しています。計画に基づく施策の推進を図ることにより、多くのSDGsの開発目標の達成に取り組んでまいります。

■SDGs 17の国際目標



資料：外務省国際協力局地球規模課題総括課（令和2年6月）

第2章

社会全体の環境と 富谷市の現状

1. 時代の潮流

時代の変化による社会全体の環境と課題として、次のようなことがあげられます。

(1) 人口減少社会と超高齢社会の本格化

日本では少子高齢化が急速に進行し、人口減少社会に入っています。平均寿命が延びる一方で、介護や支援の必要性が高まる後期高齢者や単身高齢世帯等の増加により、社会保障費等の支出が大幅に膨らんでいくことも懸念されており、シニア世代の健康・生きがいといった生涯現役・生涯活躍社会づくりや高齢福祉施策の推進、支え合いの地域社会づくりなどの必要性が一層高まっています。

少子高齢化に伴って進む生産年齢人口（15～64 歳人口）の減少は、労働力の減少や消費の縮小を招き、社会全体の活力の低下、地域経済の縮小など、住民生活全般に大きな影響を及ぼすことが懸念され、その対応が課題となっています。

(2) 持続可能な社会の実現に向けた取組の拡大

地球温暖化による気候変動への対応や再生可能エネルギーへの転換、生物多様性の保全といった地球環境問題への対応が重要な課題となっています。近年の地球温暖化の進行によって、猛暑や台風の頻発化等の気候変動が発生し、洪水や干ばつ、農作物の生産可能地域の変化や大規模な不作等が食料供給に影響を及ぼしており、今後の食料の確保や更なる物価の高騰が懸念されています。

環境資源は有限であるという前提に立ち、それらが適切に管理されることで、経済活動や社会が長期的に維持される持続可能性と、将来世代のニーズを損なうことなく、現世代のニーズを満たす持続可能な開発が世界共通の普遍的な概念として注目されています。こうした中、SDGs（持続可能な開発目標）が2015年9月に国連で採択され、2030年を期限に達成をめざした取組を進めています。身近な地域社会においても、持続可能な開発には環境と経済の両立が不可欠であり、行政、事業者、市民などが協調し、目標達成に向けた取組を進めていくことが求められています。

(3) リスク社会における安全・安心な暮らしの担保

近年、東日本大震災をはじめとした大規模な災害が頻発しています。また、高齢者や子どもを狙った犯罪や凶悪な事件は依然として全国的に多発しています。最近では、2019年末に最初の症例が発見された新型コロナウイルス感染症は、またたく間に世界に拡散し、世界中の人々を震撼させました。産業技術の発展は人々の生活に豊かさをもたらしてきましたが、同時に社会経済の複雑化、グローバル化を進展させ、環境問題の深刻化、甚大な被害を引き起こす風水害の発生、感染症の世界的大流行といったこれまで想定していなかったような巨大かつ複雑で様々なリスクが生み出されるリスク社会を到来させています。

今後は、コロナ禍を踏まえた生活様式の変化やこどもを取り巻く環境の変化等を踏まえ、環境、産業、交通、防犯・防災、食の安全性、公衆衛生、感染症対策、消費者問題など多分野にわたる様々なリスクに対する責任や対策実施主体を明らかにしつつ、リスクの評価・管理を適切に行いながら安全・安心な暮らしの担保することが求められています。

1. 時代の潮流

(4) 「多様性」を認め合う社会の形成

社会の成熟に伴う人々のライフスタイルや価値観が多様化する中で、家族や世帯のあり方や結婚や性に対する考え方、人と人のつながりや関係性などが大きく変化してきています。近年の ICT 技術の発展やワークライフバランス重視をはじめとする仕事観の変化、政府の働き方改革推進などによってテレワークや時短勤務など、時代の流れにあわせ働き方も多様化してきています。また、グローバル化の進展によって、外国籍市民や海外からの来訪者が増加し、国籍や民族、生活文化や習慣の違いなど多様なバックグラウンドを持つ人々が地域社会の中で増えてきています。

このため、年齢、性別、国籍、文化・習慣、障がいの有無などにかかわらず、誰もが尊厳ある個人として尊重され、一人ひとりの個性や多様な価値観・生き方を互いに認め合い、安心して生活し、地域で共に支え合いながら活躍できる環境づくりが求められます。

(5) 市民協働型のまちづくりの進化の必要性の高まり

人口減少社会に突入し、超高齢社会を迎え、行政だけでは解決できないような社会的課題が顕在化しています。このような状況を踏まえ、これまで以上に、市民力・地域力を結集した市民協働型のまちづくりを進めていくことが求められています。市民力とは、市民が自主的・自発的に地域課題の克服に取り組もうとする力であり、その力が地域コミュニティの維持や社会的課題の解決には必要不可欠です。

また、これまでの協働はどちらかといえば、主に市民と行政の関係で考えられてきましたが、この関係性だけでは解決できない社会的な課題が増えてきています。今後は、市民や行政、市民団体、地域組織をはじめ、教育機関、民間企業など多様な主体による協働が求められます。

(6) 「地方創生」の推進と公民連携の必要性の高まり

国、地方ともに財政状況がひっ迫する中で、行財政改革が進められ、地方自治体の果たすべき役割についても見直しが進められています。また、高度経済成長期に集中的に整備された道路や橋梁、公共施設等の社会基盤の老朽化が急速に進行しており、補修修繕、維持管理にかかる費用が急速に増大することが見込まれており、地方自治体の財政に対して大きな負担を与えることが懸念されています。

国は、急速な少子高齢化の進行による人口減少や東京一極集中を是正し、各地域がそれぞれの特徴を生かした自立的で持続的な社会を創生することをめざし、地方での雇用創出、地方への人口移動、結婚・出産・子育て等における若年世代の支援、安心な暮らしづくりなどの地方創生を促進しています。様々で困難な行政課題を解決しつつ、地方創生を実現していくためには、各自治体が主体性を発揮し、地域の固有性を生かした施策を展開する重要性が高まっているとともに、近隣市町村等との広域的な連携も求められています。

また、社会益と企業益の相乗発展をめざす企業、本業において公共領域への進出を図る企業が増えつつある中、公共サービスは行政が行うという既成概念を払拭し、公民連携による公共サービスの提供を模索するなど、行政では持ち得ていない、民間の資金力やノウハウをこれからのまちづくり、地方創生において積極的に活用していくことが求められます。

1. 時代の潮流

（7）経済環境の変化と DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

近年、IoT やビッグデータ、AI の進化やロボット技術の発達、自動運転や燃料電池車の開発、医療の高度化などの技術革新が進んでいます。こうした情報技術の高度化をはじめとした技術革新は、「第四次産業革命」と呼ばれる段階に移行しつつあるといわれており、生産設備や流通（供給）サイドと消費（需要）サイドを ICT でつなぐことで、自動化が図られた効率的な生産・流通体制を構築しようとする「つながる経済」、「つながる産業」の潮流として発展しており、将来的に深刻化する労働力不足の対応としても期待されています。また、生産や消費といった経済活動に加え、健康や医療、公共サービス、働き方、ライフスタイルにも影響を与え、様々な社会課題を解決することが期待されています。IoT の普及によるシステム化やネットワーク化の取組を、ものづくり分野だけではなく様々な分野に広げ、デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革する DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が提唱されています。

政府では、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会である Society 5.0 を提唱しており、また、デジタルの技術の活用により地域の構成を活かしながら地域の社会課題の解決を目指す構想を掲げています。本市のまちづくりにおいても AI やビッグデータの活用、スマートモビリティや MaaS の導入等デジタル技術を活用した取組が求められています。

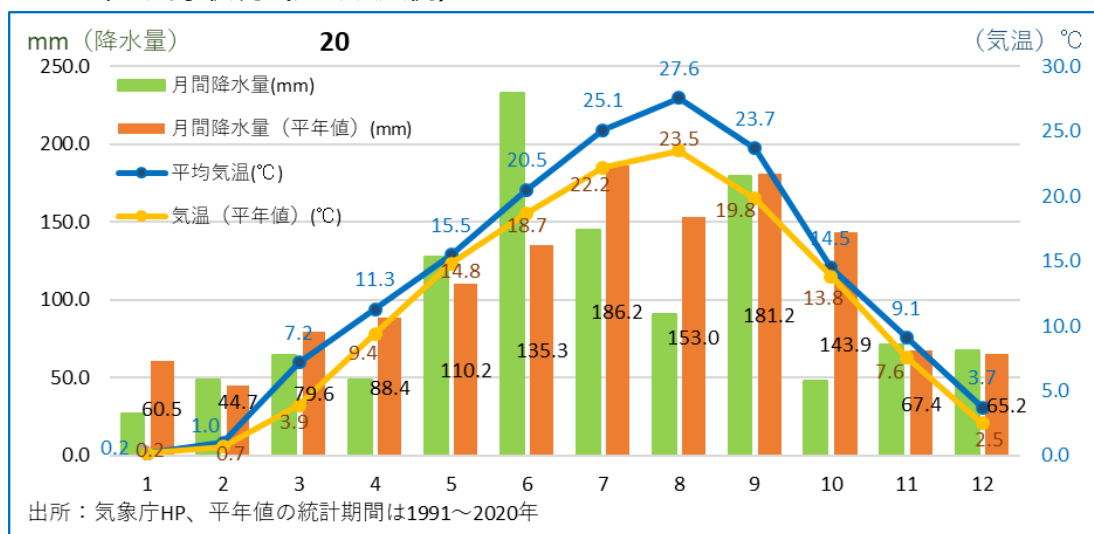
2. 富谷市の特性

現在の本市の特性を次のように捉えます。

(1) 自然的特性

本市の 2023 年の月別平均気温は、0.2～27.6℃であり、かつ 1～2 月の寒冷時にも 0℃を上回り、年間の平均気温は概ね 12℃前後で推移しています。雪も少なく東北地方の中でも温暖な気候は、本市の強みとなっています。

■2023 年の気象状況（アメダス大衡）



(2) 歴史

現在の富谷市の区域には、寺前下遺跡等、縄文時代から継続的に定住したとみられる遺跡が数多くあり、古代から住みやすい土地であったことが窺われます。

戦国時代は、伊達氏勢力下にある黒川氏が支配していましたが、天正 19（1591）年に伊達政宗が豊臣秀吉から「富谷」を含む黒川郡、宮城郡、名取郡等を拝領以降、「富谷」の発展の基礎整備が始まりました。江戸時代となり、元和 4（1618）年、吉岡黒川氏の家老を退いていた内ヶ崎筑後が、伊達政宗に宿場の開設を命ぜられ、元和 6（1620）年に富谷宿が誕生しました。

明治時代に入り、明治 6（1873）年には、宮城県内の他の自治体と同様に小学校（旧富谷小学校、旧西成田小学校）が開校するなど近代化が進められました。明治 22（1889）年の町村制の施行により、黒川郡富谷村、一関村、二関村、三関村、明石村、石積村、今泉村、大亀村、大童村、穀田村、志戸田村、西成田村の区域をもって、黒川郡富谷村が発足しました。

その後、昭和 38（1963）年 4 月 1 日の町制施行により黒川郡富谷町となりました。昭和 45（1970）年 6 月、町内初の大規模新興住宅地である向陽台団地（東向陽台）の開発が開始され、その後も町内に続々と住宅団地の開発が進みました。

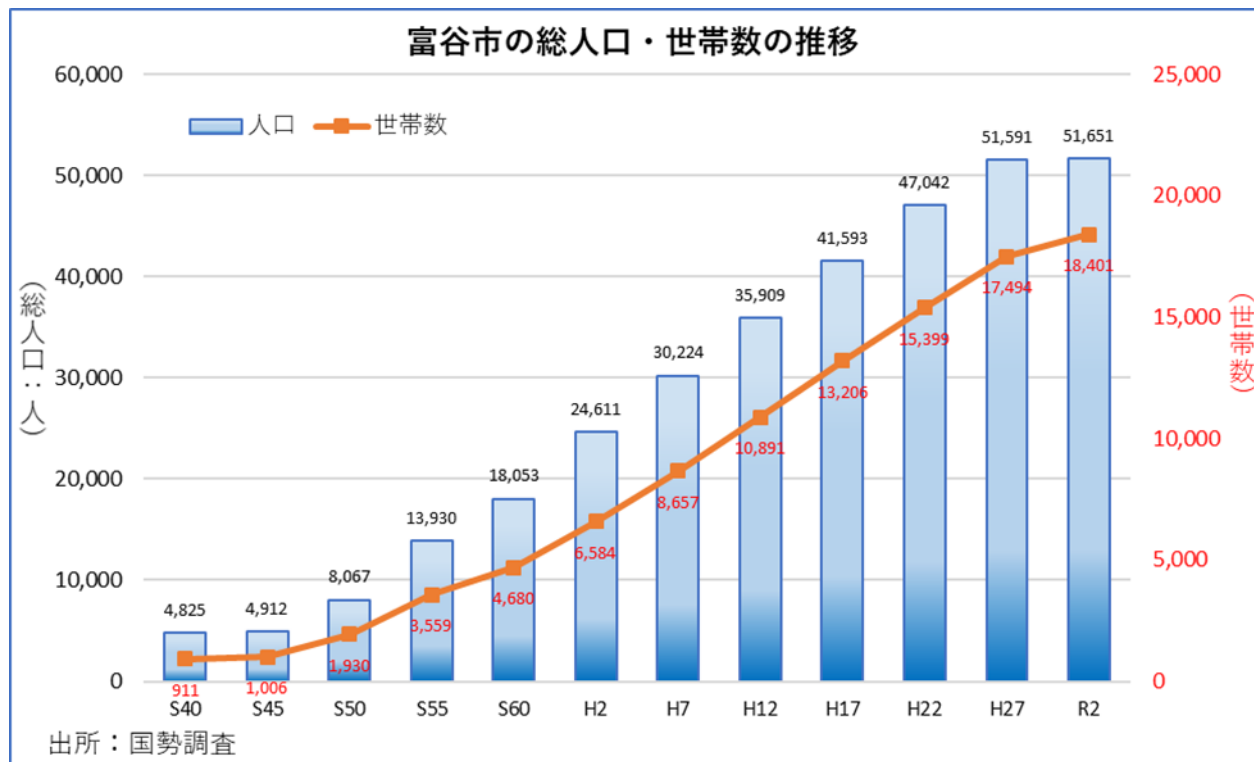
平成 27 年国勢調査で人口が 5 万人となり、市制の要件が整ったことから、平成 28（2016）年 10 月 10 日に単独での市制施行により富谷市が誕生しています。

2. 富谷市の特性

(3) 人口の推移

本市の総人口は令和2年で51,651人となっています。これまで本市の人口は増加傾向にありましたが、最近は微増となっています。また、本市の世帯数は一貫して増加しており、令和2年で18,401世帯となっています。

■ 富谷市総人口の推移



■ 年齢3区分別人口の推移

	人口 (人)				年齢別人口比率 (%)			
	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
年少人口	7,879	9,249	9,625	8,491	19.0	19.7	18.7	16.5
生産年齢人口	28,940	31,295	32,749	31,812	69.7	66.6	63.6	61.8
老年人口	4,725	6,412	9,088	11,144	11.4	13.7	17.7	21.7
計	41,593	47,042	51,591	51,651	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：国勢調査 注) 計には年齢不詳を含む、構成比には年齢不詳を含まない人数で計算

2. 富谷市の特性

(4) 居住者特性

国勢調査によって平成17年から令和2年までの15年間の人口・世帯数の動向をみると、本市の人口は増加傾向にあります。仙台都市圏の14市町村（本市、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村）で比較すると人口増減率は最も高くなっています。

富谷市の年少人口の割合は、平成17年から令和2年まで宮城県平均や仙台都市圏平均を上回っているものの徐々に割合が少なくなっています。老年人口の割合は、宮城県平均や仙台都市圏平均を下回っているものの、割合が高くなってきています。

■人口増減・世帯数増減の状況（平成17年～令和2年）

地域名	人口増減 (人)	人口増減率 (%)	世帯数増減 (世帯)	世帯数 増減率 (%)	世帯あたり 人員増減 (人/世帯)	世帯あたり 人員増減率 (%)
富谷市	10,058	24.2	5,253	40.0	▲0.36	▲11.3
仙台都市圏	77,110	5.3	118,385	20.5	▲0.32	▲12.7
宮城県	▲58,222	▲2.5	123,895	14.4	▲0.41	▲14.8

資料：国勢調査

■年齢別人口構成比の推移

地域名	平成17年			平成22年			平成27年			令和2年		
	年少 人口	生産 年齢 人口	老年 人口	年少 人口	生産 年齢 人口	老年 人口	年少 人口	生産 年齢 人口	老年 人口	年少 人口	生産 年齢 人口	老年 人口
富谷市	19.0	69.7	11.4	19.7	66.6	13.7	18.7	63.6	17.7	16.5	61.8	21.7
仙台 都市圏	14.2	69.2	16.7	13.7	67.0	19.3	13.0	64.0	23.0	12.5	62.3	25.2
宮城県	13.8	66.2	20.0	13.2	64.4	22.3	12.5	61.7	25.7	11.9	59.7	28.3

資料：国勢調査

2. 富谷市の特性

(5) 通勤・通学の状況

① 通勤

令和2年度の本市の通勤の状況をみると、流出率は69.3%に対し、流入率は52.8%であり流出超過となっています。富谷市内から通勤する就業者のうち、他市町村への通勤先で最も多いのは仙台市で全体の46.1%を占め、特に隣接する仙台市泉区、仙台市青葉区が多くなっており、次いで大和町、仙台市宮城野区となっています。

富谷市内で従業する就業者のうち、他市町村からの通勤者で最も多いのは仙台市で全体の32.7%を占め、特に仙台市泉区が多くなっており、次いで大和町、仙台市青葉区となっています。

■通勤（令和2年）

資料：国勢調査

地域名	常住地による就業者数 (人)	流 出		従業地による就業者数 (人)	流 入		昼夜間比 (%)
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)	
富谷市	25,280	17,515	69.3	16,450	8,685	52.8	65.1
【流出の内訳】				【流入の内訳】			
仙台市		11,655	46.1	仙台市	5,374	32.7	
(泉区)		(4,799)	(19.0)	(泉区)	(3,277)	(19.9)	
(青葉区)		(3,833)	(15.2)	大和町	1,169	7.1	
大和町		2,384	9.4	(青葉区)	(946)	(5.8)	
(宮城野区)		(1,829)	(7.2)	(宮城野区)	(623)	(3.8)	
その他		3,476	13.8	その他	2,142	13.0	

② 通学

令和2年度の本市の通学の状況をみると、流出率は72.4%に対し、流入率は33.3%であり流出超過となっています。富谷市内から通学する通学者のうち、他市町村への通学先で最も多いのは仙台市で全体の58.8%を占め、特に隣接する仙台市泉区、仙台市青葉区が多くなっており、次いで、仙台市宮城野区、大和町となっています。

富谷市内に通学する通学者のうち、他市町村からの通学者で最も多いのは仙台市で全体の24.8%を占め、特に仙台市泉区が多くなっており、次いで大和町、仙台市青葉区となっています。

■通学（令和2年）

資料：国勢調査

地域名	常住地による通学者数 (人)	流 出		従業地による通学者数 (人)	流 入		昼夜間比 (%)
		通学者数 (人)	流出率 (%)		通学者数 (人)	流入率 (%)	
富谷市	3,199	2,317	72.4	1,323	441	33.3	41.4
【流出の内訳】				【流入の内訳】			
仙台市		1,880	58.8	仙台市	328	24.8	
(泉区)		(805)	(25.2)	(泉区)	(302)	(22.8)	
(青葉区)		(712)	(22.3)	大和町	87	6.6	
(宮城野区)		(205)	(6.4)	(青葉区)	(18)	(1.4)	
大和町		190	5.9	大衡村	7	0.5	
その他		247	7.7	その他	19	1.4	

2. 富谷市の特性

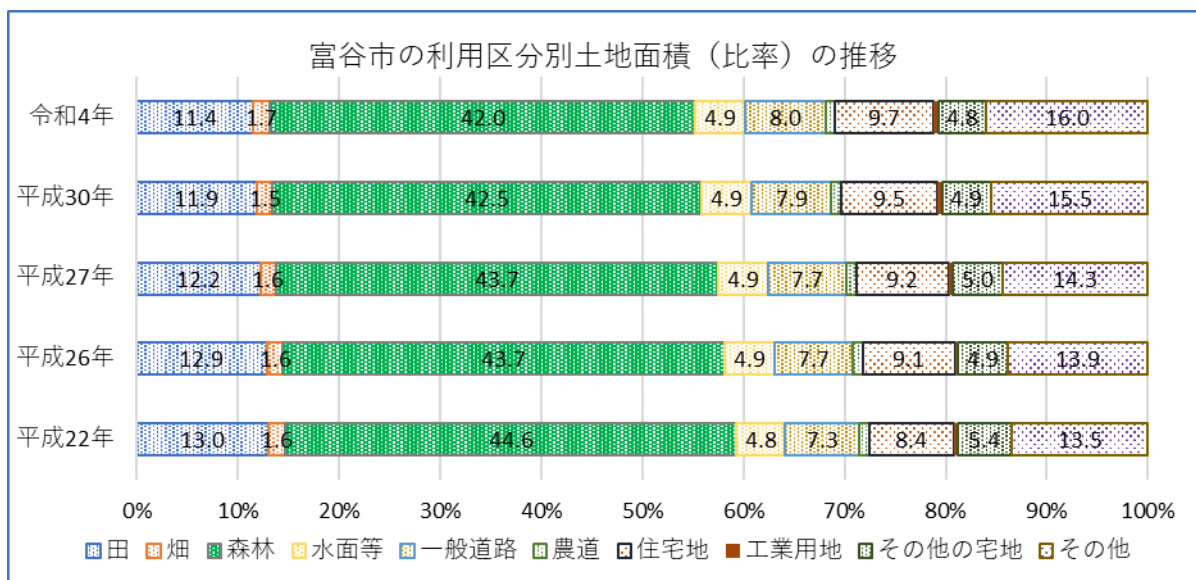
(6) 土地利用の特性

本市は、良好な自然環境を保全しながら都市形成を図った都市であり、国道4号に沿って南北方向に市街地が形成され、北部にはまとまった農地、東部には森林が広がっています。

令和4年の土地利用区分別土地面積としては、森林が全体の42.0%、農地13.2%（田11.44%、畑1.74%）となっており、森林と農地で全体5割以上を占めています。市全域が都市計画区域であり、市街化区域および用途地域は25.2%を占めており、用途地域のうち住居系の指定割合が77.1%、工業系の指定割合が19.5%と、宮城県平均と比較して高くなっています。

構成比の増減傾向を見ると、大きな変化は見られないものの、田、森林、その他の宅地（事務所用地等）が減少傾向にあり、工業用地、その他（公共・公益施設、レクリエーション用地等）、住宅地、一般道路が増加傾向にあります。

■ 土地利用区分の推移



2. 富谷市の特性

(7) 経済・産業特性

① 市内総生産

宮城県の令和3年度市町村民経済計算によれば、本市の市内総生産額は平成23年に比べて23.8%増加し、1,199.8億円となっています。

■ 市内総生産額の推移（実数）



② 一人当たり市民所得

宮城県の市町村民経済計算によれば、本市の市民所得は、平成23年度から令和3年度まで増減はあるものの17.5%増加しています。一人当たり市民所得は、宮城県の一人当たり県民所得を上回っています。

■ 一人当たり市民（県民）所得の推移

（単位：千円）

	平成23年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
富谷市	2,757	3,052	3,100	3,075	2,978	3,031
宮城県	2,506	3,041	3,043	2,972	2,795	2,862
対県比	110.0	100.4	101.9	103.5	106.5	105.9

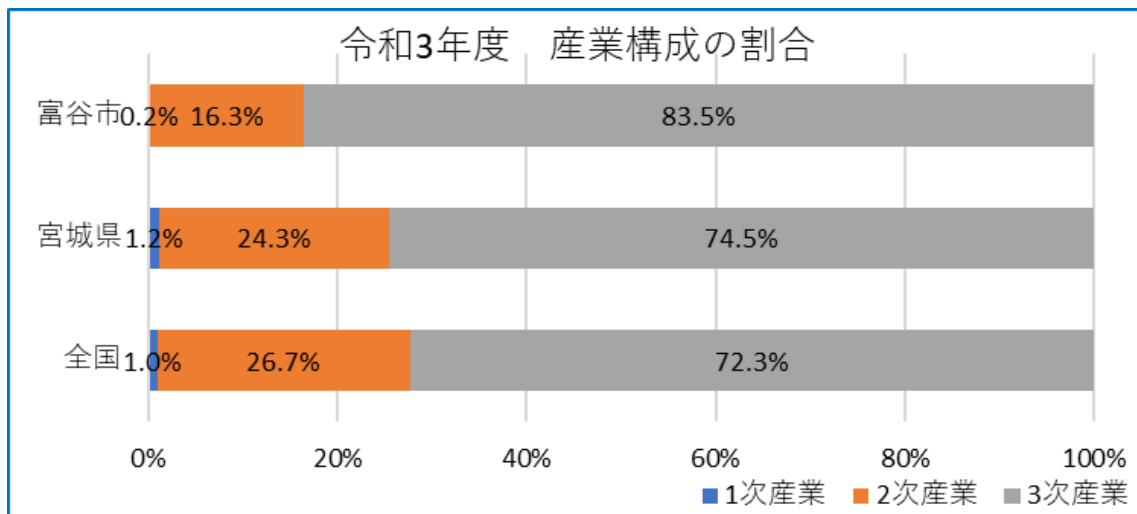
＊宮城県の一人当たり県民所得及び一人当たり市町村民所得は各年度の所得額を10月1日現在の推計人口で除して計算

2. 富谷市の特性

③ 産業の構成

本市の産業構成割合は、全国及び県の平均と比べ、3次産業の割合が高く、1次産業および2次産業の割合が低くなっています。

■ 令和3年 産業構成の割合（生産額（名目））



【出所】市町村民経済計算（宮城県）、宮城県民経済計算、経済活動別国内総生産（内閣府）

2. 富谷市の特性

④ 事業所数及び従業者数

事業所数は、平成8年から令和3年にかけて、概ね増加基調で推移しています。また、従業者数も同様に増加基調で推移しており、平成8年の6,844人に対し、令和3年は15,095人となっています。

令和3年の産業分類別（大分類）構成比をみると、事業所数が多いのは卸売業・小売業、建設業、生活関連サービス業・娯楽業、医療・福祉順となっており、従業者数が多いのは卸売業・小売業、医療・福祉、製造業、運輸業・郵便業及び宿泊業・飲食サービス業の順となっています。

■ 事業所数及び従業者数の推移



出所：総務省統計局「事業所・企業統計調査報告」、「経済センサス」（富谷市統計書）

（注）令和元年は「令和元年経済センサス-基礎調査」の民営＋国・地公体の事業所数合計、従業者数のデータ無し

3. 富谷市総合計画の検証

平成 28 年度を初年度とする「第 1 次富谷市総合計画」では、将来像の実現に向けて、本市の特徴である多様な“ひと”と“資源”を「活かし」、「守り」、「育み」ながら、新たなまちづくりへと「動き」出しました。そして、市民・議会・事業所・行政の協働・協力・連携（「つながり」）を図り、富谷市が市民の「誇り」となるよう「オールとみや」の体制で「新生富谷市」を創造してまいりました。

「後期基本計画（平成 28 年度～令和 7 年度）」では、各施策の進捗状況を管理するため、47 項目（再掲除く）の目標指標・指数を設定しました。

実績値が未確定の 1 項目を除いた 46 項目のうち、目標を達成した指標・指数は 16 項目となり、達成度 90%以上の項目を含んだ場合 26 項目となりました。

■将来像（基本方針）ごとの総括

基本方針 1 暮らしを自慢できるまち！

【目標指標 15 項目 達成度 90%以上の項目は 10 項目】

富谷で働くことにやりがいを実感し、「とみやシティブランド」で自慢できるような環境づくりを目指し、まちづくりを進めてきました。富谷宿観光交流ステーションを中心とした賑わい創出や起業・創業の実現をはじめ、企業誘致による雇用者数の増加等、環境整備を進めてきました。

市民バス利用者数や上水道利用の有収率、合併処理浄化槽の普及率はやや目標を下回っており、安全で自由に移動でき、住み心地の良さを実感できるまちづくりに向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 高屋敷西工業団地の整備と 200ha の成田二期北工業団地の整備による企業立地の促進
- 起業支援等の拠点施設「TOMI+」「荷宿」の整備や、起業塾「富谷塾」を通じた起業・創業者に向けた支援
- 富谷宿観光交流ステーション「とみやど」の整備等による観光振興・交流人口の拡大、しんまち地区の活性化
- 「やすらぎパークとみや」の整備や大亀山森林公園の活性化に向けた実証事業（ツリーハウス、カフェ営業）の実施
- 富谷市の特産品（ブルーベリー、富谷茶、はちみつ等）の PR や新しい特産品の開発
- 仙台市泉中央までの新たな基幹公共交通整備の調査検討
- デマンド交通の運行
- 産官学の新たな連携の推進

3. 富谷市総合計画の検証

基本方針2 教育と子育て環境を誇るまち！

【目標指標9項目 達成度90%以上の項目は4項目】

こどもが多いまちとして、こどもの権利を守り、こどもが安心して暮らせる環境づくりを目指し、「富谷市子どもにやさしいまちづくり宣言」を行い、子どもにやさしいまちづくりを進めてきました。

東北の自治体で初めてとなる不登校特例校を設置し、こどもの多様な学びの場の整備を進めてきました。また、他の自治体に先駆けて学校給食費完全無償化を実施したほか、18歳までの子ども医療費完全無償化、保育所待機児童ゼロの維持など、安心して子育てができる環境整備を進めてきました。

生涯にわたる学びと交流の拠点として、図書館、児童屋内遊戯施設、スイーツステーションを複合化した富谷市複合図書館（ユートミヤ）の整備を進めてきました。

なお、学習活動や文化活動に対する市民満足度等は未達成となっており、生涯学習や芸術・文化活動の更なる促進に向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 子どもにやさしいまちづくりの推進（日本ユニセフ協会から実践自治体として国内初の承認）
- 富谷中学校西成田教室開設（東北初となる不登校特例校）
- 学校給食費完全無償化（県内市部自治体初）
- 18歳までのこども医療費完全無償化の実施
- 保育所待機児童ゼロの達成と継続（令和2年から5年連続）
- 富谷市複合図書館（ユートミヤ）の整備
- 放課後児童クラブを全ての小学校敷地内に設置
- 中学校海外研修派遣事業の実施

3. 富谷市総合計画の検証

基本方針3 元気で温かい心で支えるまち！

【目標指標 12 項目 達成度 90%以上の項目は 5 項目】

あらゆる世代が元気に暮らし、高齢者や障がい者も安心して暮らせるような環境づくりを目指し、まちづくりを進めてきました。認知症学びの講座の受講者数や就労移行支援・就労継続支援事業所数の増加等、環境整備を進めてきました。

高齢者・障がい者外出支援乗車証「とみばす」交付率（高齢者）や社会福祉協議会へのボランティア登録者数はやや目標を下回っており、高齢者や障がい者がより安心して暮らし、身近なコミュニティが市民の支えになるようなまちづくりに向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 高齢者・障がい者の外出支援乗車券「とみばす」の導入
- 福祉タクシー利用券助成等の実施
- 地域と施設の支え合い事業 とみサポ「こころね」の実施
- 「街かどカフェ」、「ゆとりすとクラブ・サロン」の開催
- 総合病院の誘致活動
- 東北大学、宮城県眼科医会との連携協定、まちかど健康ラボの開設
- 軟骨伝導イヤホンの設置

基本方針4 市民の思いを協働でつくるまち！

【目標指標 13 項目 達成度 90%以上の項目は 7 項目】

日常生活が安全で、健全なまちづくりに向けて市民が協働できる環境づくりを目指し、まちづくりを進めてきました。審議会等委員への女性登用率の向上や財政健全化判断比率4指標の基準内確保、市税収納率の向上等、環境整備を進めてきました。

消防団員充足率や耐震診断士派遣事業申請件数はやや目標を下回っており、日常生活がより安全に包まれるまちづくりに向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 「とみやわくわくミーティング」等の開催
- 「ゼロカーボンシティ」の宣言、「富谷市 2050 年ゼロカーボン戦略」、「富谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」の策定
- SNS の活用等による広報広聴機能の充実
- 地域コミュニティによる自主防災組織の育成促進
- 行政事務のデジタル化の推進
- 行政改革の推進
- 防犯カメラの設置推進
- 審議会等委員への女性の登用推進

4. 市民ニーズの把握・整理

(1) 市民アンケート調査

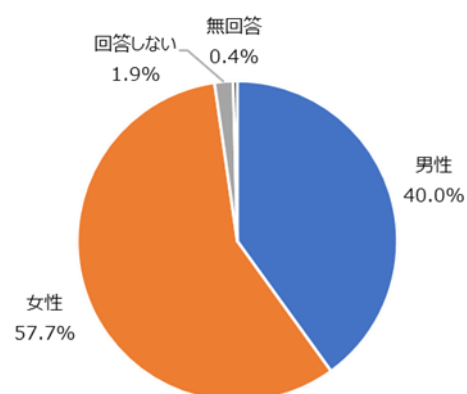
市の現状評価や定住意向をはじめ、今後期待するまちづくりの方向性や各分野における施策要望など、市民のまちづくりに関する意識・ニーズ等を把握し、第2次富谷市総合計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として、アンケート調査を実施しました。

■ 調査の概要

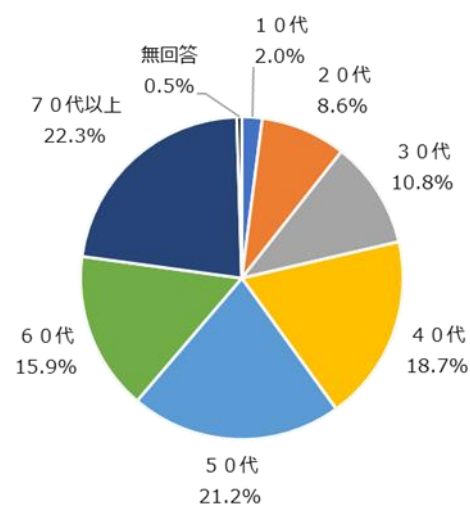
調査名	富谷市まちづくりアンケート調査
調査期間	2024年（令和6年）9月27日（金）～11月5日（火）
調査対象者	富谷市内にお住まいの18歳以上の市民
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
配布数	2,000票
配布・回収方法	郵送による配布・郵送もしくはWebによる回収
回収数(率)	1,226票（61.3%） ※ 内訳は郵送 767票：Web 459票（62.6%：37.4%）

【回答者の属性】

No.	選択肢	件数	比率
1	男性	491	40.0
2	女性	707	57.7
3	回答しない	23	1.9
	無回答	5	0.4
	回答者数（N）	1,226	100.0



No.	選択肢	件数	比率
1	10代	25	2.0
2	20代	105	8.6
3	30代	132	10.8
4	40代	229	18.7
5	50代	260	21.2
6	60代	195	15.9
7	70代以上	274	22.3
	無回答	6	0.5
	回答者数（N）	1,226	100.0



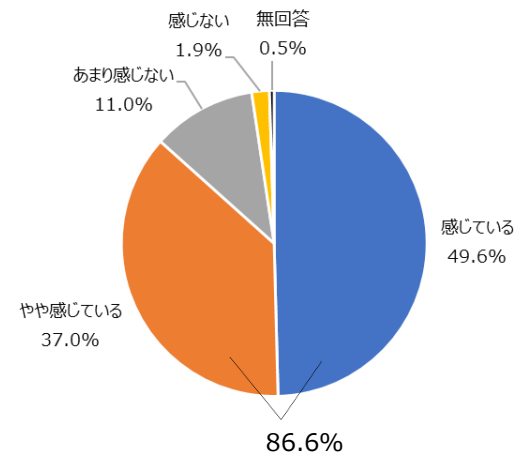
4. 市民ニーズの把握・整理

① 富谷市への愛着、暮らしやすさ（将来居住意向）に関する調査

富谷市への愛着については、「愛着を感じている」、「やや感じている」が 86.6%と大半を占めました。富谷市のどのようなところに愛着を感じるのかでは、「便利さ（買い物、病院等）」が 58.9%と最も多く、次に「安全・安心な暮らし」(44.0%)、「自然環境」(35.9%)が続いています。

【富谷市への愛着】

No.	選択肢	件数	比率
1	感じている	608	49.6
2	やや感じている	454	37.0
3	あまり感じない	135	11.0
4	感じない	23	1.9
	無回答	6	0.5
	回答者数 (N)	1,226	100.0



【富谷市のどのようなところに愛着を感じるのか】

No.	選択肢	件数	比率
1	便利さ（買い物、病院等）	626	58.9%
2	安全・安心な暮らし	467	44.0%
3	自然環境	383	35.9%
4	町並み・景観	283	26.4%
5	子育て環境	248	23.3%
6	地域性・地域住民（人柄）	205	19.3%
7	歴史・文化	48	4.5%
8	教育環境	41	3.9%
9	その他	65	6.0%
	無回答	202	4.1%
	累計	2,402	226.2%
	回答者数 (N)	1,062	100.0%

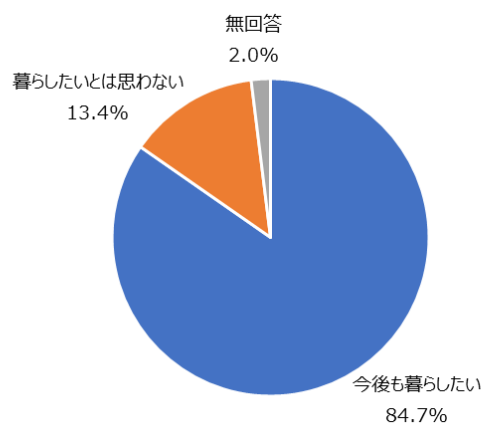
4. 市民ニーズの把握・整理

富谷市の暮らしやすさ（定住意向）については、「今後も暮らしたい」が84.7%と大半を占めました。

富谷市で暮らしたいと思う理由では、「住環境が良い」が53.3%と最も多く、次に「買い物や外食、娯楽に便利」（48.6%）、「自然環境が良い」（31.4%）が続いています。また、暮らしたいと思わない理由では、「交通の便が悪い」が71.3%と最も多く、次に「買い物や外食、娯楽に不便」（27.4%）、「公共施設が充実していない」（21.3%）が続いています。

【富谷市の暮らしやすさ】

No.	選択肢	件数	比率
1	今後も暮らしたい	1,038	84.7
2	暮らしたいとは思わない	164	13.4
	無回答	24	2.0
	回答者数（N）	1,226	100.0



【富谷市で暮らしたいと思う理由】

No.	選択肢	件数	比率
1	住環境が良い	553	53.3%
2	買い物や外食、娯楽に便利	504	48.6%
3	自然環境が良い	326	31.4%
4	子育てがしやすい	166	16.0%
5	医療・福祉サービスが充実している	163	15.7%
6	地域での人間関係が良い	160	15.4%
7	学校や仕事、家族の都合	147	14.2%
8	交通の便が良い	115	11.1%
9	都市基盤が整っている	49	4.7%
10	子どもの教育環境が良い	49	4.7%
11	公共施設が充実している	41	3.9%
12	消防・防災・防犯体制が整っている	37	3.6%
13	その他	61	5.9%
	無回答	32	3.1%
	累計	2,403	231.5%
	回答者数（N）	1,038	100.0%

4. 市民ニーズの把握・整理

② 富谷市が目指すまちづくりの方向性に関する調査

目指すべきまちづくりの方向性については、「道路や公共交通機関などの生活基盤が整った利便性の高いまち」が61.5%と最も多く、次に「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち」が45.8%と続いています。

【富谷市が目指すべきまちづくりの方向性】

No.	選択肢	件数	比率
1	道路や公共交通機関などの生活基盤が整った利便性の高いまち	754	61.5%
2	誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち	562	45.8%
3	子育て環境や子どもたちを育む教育の充実したまち	489	39.9%
4	自然が豊かで潤いある環境にやさしいまち	295	24.1%
5	防災・防犯に優れたまち	289	23.6%
6	高齢者が生きがいや役割を持ち、いきいきと暮らせるまち	253	20.6%
7	農業や商業、工業など産業が充実した活気のあるまち	222	18.1%
8	人と人とのつながりを持ち、地域みんなで支え合うまち	133	10.8%
9	芸術・文化活動・スポーツ活動などが盛んなまち	117	9.5%
10	子どもの権利条約に基づいた子どもにやさしいまちづくりを推進するまち	107	8.7%
11	宿場町の歴史と文化を誇るまち	49	4.0%
12	市民が主体となってまちづくりに参画できる市民協働のまち	38	3.1%
13	その他	40	3.3%
	無回答	57	4.6%
	累計	3,405	277.7%
	回答者数 (N)	1,226	100.0%

4. 市民ニーズの把握・整理

これから必要な事業については、「仙台市泉中央までの交通利便性の確保」が 73.3%と最も多く、次に「安全・安心な暮らしの確保」が 42.0%と続いています。

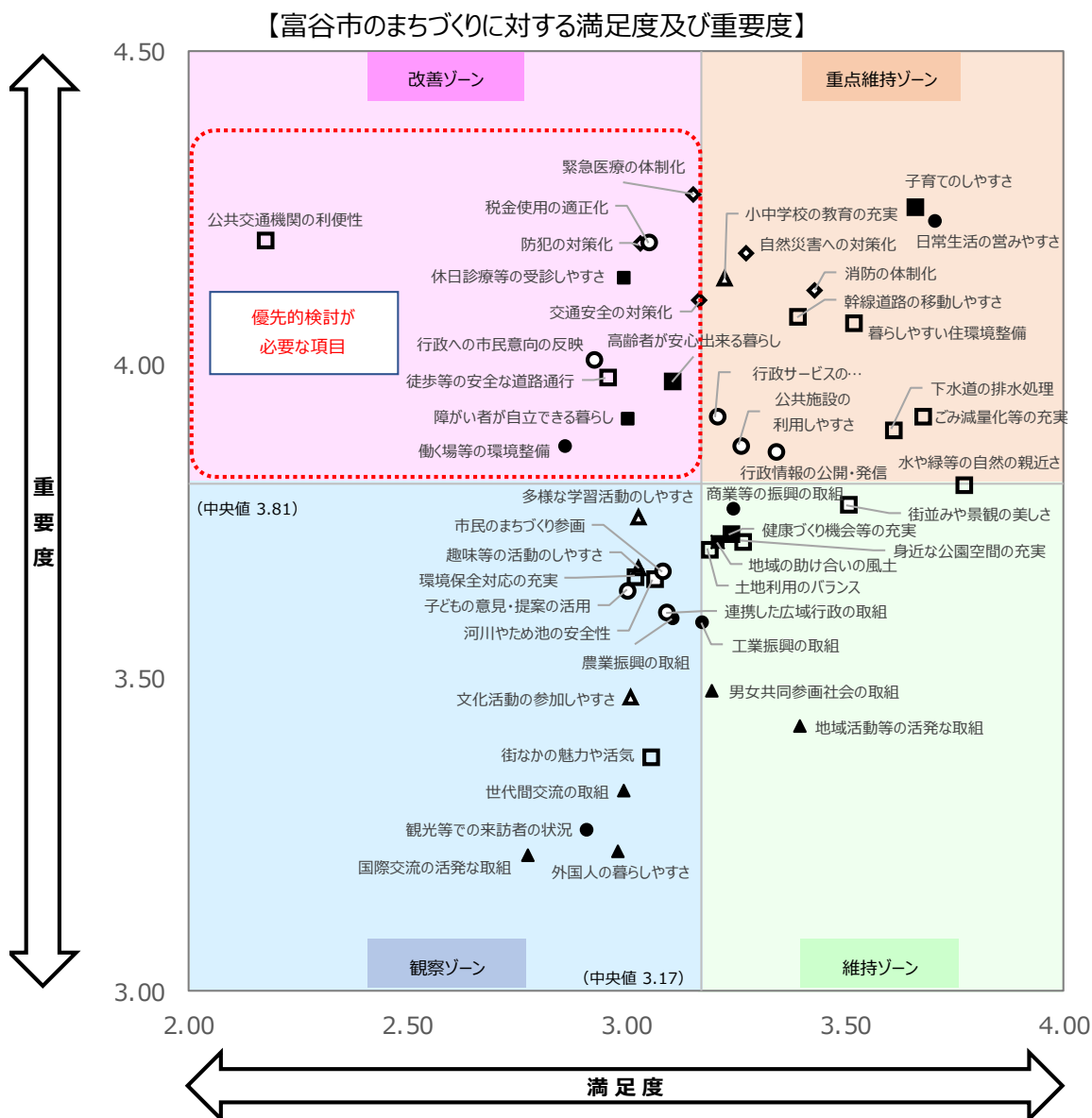
【今後必要な事業】

No.	選択肢	件数	比率
1	仙台市泉中央までの交通利便性の確保	899	73.3%
2	安全・安心な暮らしの確保	515	42.0%
3	総合病院などの医療施設の誘致	474	38.7%
4	スーパーなど商業施設の充実	365	29.8%
5	子育て支援策の充実	293	23.9%
6	幼児教育や小中学校の教育等の充実	291	23.7%
7	企業誘致の推進	289	23.6%
8	市民バス・デマンド型交通の充実	275	22.4%
9	幹線道路の整備	260	21.2%
10	介護予防の推進	208	17.0%
11	健康維持・増進への取組の推進	197	16.1%
12	公園など憩いの場の整備	178	14.5%
13	共に支え合う地域づくりの推進	109	8.9%
14	文化会館の整備	107	8.7%
15	障がいのある方が働くことのできる通所施設等の整備	99	8.1%
16	地球温暖化対策の推進	88	7.2%
17	デジタルを活用した行政サービスの提供	83	6.8%
18	子どもの権利条約に基づいた子どもにやさしいまちの推進	74	6.0%
19	自然や人とふれあえる市民農園の整備	69	5.6%
20	国際姉妹都市・友好都市実現による国際交流、多文化共生の推進	44	3.6%
21	大亀山森林公園の利活用の推進	39	3.2%
22	市民協働の推進	22	1.8%
23	その他	49	4.0%
	無回答	58	4.7%
	累計	5,085	414.8%
	回答者数 (N)	1,226	100.0%

4. 市民ニーズの把握・整理

③富谷市のまちづくりに対する評価に関する調査

富谷市のまちづくりに対する満足度及び重要度をマッピングし、改善項目を把握するため「ポートフォリオ分析」を実施しました。中央値は全ての回答における平均値を採用し、中央値を基点に「重点維持ゾーン」、「改善ゾーン」、「維持ゾーン」、「観察ゾーン」の4つのゾーンに区分しています。



カテゴリー	優先的な改善が必要な施策 ※短縮標記	
■：福祉	・休日診療等の受診しやすさ ・障がい者が自立できる暮らし	・高齢者が安心出来る暮らし
△：教育文化	・該当なし	
□：生活環境	・徒歩等の安全な道路通行	・公共交通機関の利便性
◇：安全・安心	・緊急医療の体制化 ・防犯の対策化	・交通安全の対策化
●：産業	・働く場等の環境整備	
▲地域コミュニティ・交流	・該当なし	
○：行政	・行政への市民意向の反映	・税金使用の適正化

4. 市民ニーズの把握・整理

(2) 施策分野別団体ヒアリング調査

総合計画に関連する商工業・教育・福祉・地域コミュニティ・市民協働などの各分野における本市の課題や、市内で事業活動を行う事業者・団体等のニーズを把握し、総合計画の策定に向けた基礎資料とするため、9事業者・団体等を対象にヒアリング調査を実施しました。

① 事業活動における課題と行政に望む支援策について

事業所（団体）が抱えている課題としては、原材料高騰等による収益性低下への対策や少子高齢化を見据えた担い手づくりを課題として挙げる事業所（団体）が多く、行政に対しては、新規就農者への支援の拡充、地域事業者（団体）等が連携しやすい環境づくり、事業活動の広報・宣伝・PR支援を求める声が多く挙げられました。

【主な意見】 A. 現在抱えている課題

- 原材料高騰等による収益性低下への対策
- 将来の少子高齢化を見据えた担い手づくり
- 地域事業者同士のネットワーク構築
- 交通アクセス環境の改善

B. 課題を解決するにあたって、行政に望む支援

- 新規就農者への支援の拡充
- 地域事業者等が連携しやすい環境づくり
- 事業活動の広報・宣伝・PR支援
- 新たな工業団地の整備等による企業立地の促進

② 事業活動の拠点としての富谷市の「強み」と「弱み」について

「強み」としては、東北一の経済圏である仙台市と隣接していること、起業・創業支援にかかる施設が充実していること、地域住民の市民力が高いこと、などが挙げられました。これらの強みを活かすための取組として、道の駅など高い集客力が見込める施設の整備や起業・創業時の活動拠点として活用できるレンタルオフィスの確保などが挙げられました。

【主な意見】 A. 事業活動の拠点としての富谷市の「強み」

- 東北一の経済圏である仙台市と隣接していること
- 起業・創業支援にかかる施設が充実していること
- 行政との良好な連携体制
- 市民力が高い

B. 「強み」を活かすために行政が力を入れるべき取組等

- 「道の駅」等の高い集客力が見込める施設の整備
- レンタルオフィス等の確保
- 市民力を発揮できる体制整備

4. 市民ニーズの把握・整理

一方、「弱み」としては、公共交通の利便性が悪いという声が最も多く、創業支援にかかる補助金制度が少ないという意見もありました。これらの弱みを克服する取組として、デマンド交通の拡大や、車での移動のしやすさの追求などの意見が挙げられました。

- 【主な意見】 C. 事業活動の拠点としての富谷市の「弱み」
- 創業支援にかかる補助金制度が少ない
 - 交通利便性が悪い
 - 地域間格差
- D. 「弱み」を克服するために行政が力を入れるべき取組等
- 交通アクセス環境の改善

③ 富谷市の将来の都市像について

人口減少や少子高齢化がさらに進むことで、今後、本市が直面する地域全体における課題としては、介護予防事業や健康寿命を延ばす施策の充実、新興住宅地と過疎化地域との間の格差是正などが挙げられました。

また、本市が目指すべき将来像または将来性（可能性）としては、若い世代だけではなく高齢者も含め多様な世代が住み続けたいと思うまちに関する意見が多く寄せられました。その他、IT技術を駆使した先進的な取組の実現、起業家が育つまちを目指す、などの意見も挙げられました。

これらを踏まえたうえで行政に必要とされる取組として、若い人が働きたくなる企業の誘致、高齢者支援施策の充実、医療施設の充実、子ども向け起業イベントの開催、公共交通における自動運転の導入など、多岐にわたる意見が挙げられました。

- 【主な意見】 A. 全国的な人口減少や少子高齢化に伴う富谷市の地域全体における今後の課題
- 介護予防事業や健康寿命を延ばす施策の充実
 - 高齢者の活躍の場の創出
 - 地域間格差の解消
 - 交通アクセス環境の改善
- B. 富谷市が目指すべき将来像または将来性（可能性）
- 多様な世代が住み続けたいと思うまち
 - 田園・自然と共存するまち
- C. 将来像の実現または将来性（可能性）を活かすために、行政で必要となる取組
- 企業誘致
 - 高齢者支援施策の充実
 - 医療施設の充実
 - 子ども向け起業イベントの開催
 - 公共交通における自動運転の導入

4. 市民ニーズの把握・整理

④ 富谷市のこれまでの取組や今後のまちづくりについて

産業振興に関する取組については、積極的な企業誘致が必要との意見が多く見られました。

地域のイメージ戦略については、ブルーベリーやハチミツなどの特産品のイメージが浸透しているとの意見があった一方で、それらの特産品の供給体制が確立していないことや誰もがわかる富谷名物が必要との意見も寄せられました。

賑わいづくりに関する取組については、大亀山森林公園の取組は良好であるが、宿泊施設や物販店が少ないとの意見のほか、近隣自治体との連携を図るべきとの意見も挙げられました。

子どもを産み、育てやすい環境づくりに向けた取組については、子育て支援、教育環境が充実しているとの意見が数多く挙げられました。

福祉社会の形成に向けた取組については、介護予防、健康づくりに関する取組が充実しているとの意見がある一方で、高齢者支援の取組が不足しているとの意見が見られました。

安全・安心なまちづくりに向けた取組については、災害に強いまちづくりが進められているとの意見がある一方で、農業分野からは鳥獣被害への対策を充実させてほしいとの意見が寄せられました。

【主な意見】 A. 産業振興に関する取組

- 企業誘致の促進
- 起業家支援のレベルアップ

B. 地域のイメージ戦略

- 富谷の特産品（ブルーベリー、富谷茶、ハチミツなど）は浸透している
- 特産品の供給体制に懸念あり
- 新たな特産品の開発が必要

C. 賑わいづくり

- 大亀山森林公園の取組は良好
- 交通アクセスの充実が必要
- 宿泊施設や物販店が少ない
- 近隣自治体との連携を図るべき

D. 子どもを産み、育てやすい環境づくり

- 子育て支援は充実している
- 子育て関連施設が不十分

E. 福祉社会の形成に向けた取組

- 健康づくりへの取組は良好
- 高齢者、障害者支援への取組充実が必要

F. 安全・安心なまちづくり

- 富谷市は災害に強い
- 防災対策は充実している
- 鳥獣被害への対策の充実

4. 市民ニーズの把握・整理

（3）市民ワークショップの開催

第2次富谷市総合計画の策定にあたって、今後の本市のあるべき姿等について、自由に話し合える場を設け、本市の将来像を見出すことを目的に、令和6年12月から令和7年2月にかけて全3回のワークショップを開催しました。

富谷高校生8名をはじめとして80歳代までの幅広い市民が参加し多世代交流の機会となったほか、グループワークでは宮城大学の学生9名に協力いただき、活発な議論が行われました。

■市民ワークショップの概要

ワークショップ名	富谷市の未来について考える市民ワークショップ
開催日時	令和6年12月21日（土）、令和7年1月11日（土）、2月9日（日） 午後1時から午後3時まで
開催場所	富谷市役所（第1回）、東向陽台公民館（第2回、第3回）
参加人数	33名（広報、ホームページ等により公募）

■主な意見

① 活力と魅力があふれるまち（産業・観光・歴史）

- ・R&D型（リサーチ&デベロップメント）など若者が働きたくなる企業の誘致
- ・新たな特産品の開発（枝豆など）、酒粕の活用
- ・みつばちのキャラクター、みつばち踊り、富谷ハニーテラスの創設
- ・飲食店の開業支援、TOMI+、荷宿などの支援継続
- ・休耕地の有効活用、農産物（特産物）の生産
- ・他地域から人を呼び込める目玉（道の駅、テーマパーク、体験農場、グランピング施設等）の創出
- ・地域農産物のアピール（はちみつ、ブルーベリーなど）、
- ・宿泊して楽しめるスポットの整備（宿泊施設の誘致）
- ・コンサートができる音楽関連施設の整備、音楽イベントの開催
- ・富谷の貴重な歴史・伝統・文化財の研究・啓蒙（田植えおどり、ぼんぼこ祭りの復活等）

など



4. 市民ニーズの把握・整理

② 快適で住みよいまち（公共交通・道路・公園・上下水道・住環境）

- ・泉中央までの移動手段整備
- ・カーシェアの推進
- ・休耕地や道路沿道等を花畑に整備（蜜源づくり）
- ・倉庫の活用（プロジェクションマッピング、倉庫の壁を使ったアート等）
- ・市民農園付きコミュニティ空間の創設
- ・道路・歩道・自転車専用道路の整備、案内板の整備（とみやど等）
- ・主要な商業施設を巡る巡回バスの創設
- ・特色あるコンセプトを設定した公園の整備（動物とふれあえる、スポーツが楽しめるなど）
- ・大亀山森林公園の更なる活性化（産直などの地元の野菜が買える、キャンプ場敷設等）

など

③ こどもと子育てにやさしいまち（子育て・学校教育）

- ・多様な世代との交流確保
- ・こどもたちへの農業体験、食育の実施
- ・地域住民から学ぶことができる環境づくり
- ・相談しやすい環境づくり（親世代の交流機会創出、不登校の保護者支援のPR）
- ・ネット環境を活用した自宅学習の推進
- ・得意分野に特化した教育環境の整備
- ・通学環境の改善（通学時間帯のバスの増便）
- ・外国語教育の充実、体験学習の充実
- ・学芸員との富谷遺産巡りの開催

など



4. 市民ニーズの把握・整理

④ 誰もが生き生きと暮らせるまち（健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化）

- ・障がい者との交流環境の整備（手話講座などの開催）
- ・健康と教育を融合したダイエット講座の開設
- ・ユースセンター（中高生、若者の居場所）の整備
- ・シニア世代が活躍できる場の創出
- ・高齢者、障がい者の移動手段整備（とみばすのチャージ額引き上げ、定期巡回や相乗り活用）
- ・独居高齢者対策の充実、こどもと高齢者が交流できる場の整備
- ・病院（救急病院、24時間対応の病院）の整備・誘致
- ・公民館の利活用促進
- ・全世代が交流できる機会の創出（体育館を利用したイベント、祭り、市民スポーツ大会等）

など

⑤ 安全安心で誰もが暮らしやすいまち（防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化）

- ・地域住民同士の交流機会の創出、町内会による見回り、ワンワンパトロールの継続
- ・避難所の整備・周知徹底
- ・外国人との交流機会の創出（小学校での英語授業、留学生との交流等）
- ・女性の起業促進（マイクロビジネスの推進）
- ・防犯カメラの適切な利用、オレオレ詐欺対策の徹底
- ・防災対策の啓蒙、防災訓練の充実（地域の防災訓練に小・中学生参加）
- ・交通整理ボランティアの増員などの交通安全対策の徹底
- ・富谷高校前の渋滞解消（バスの本数が課題）
- ・男女間格差の排除、人権についての周知徹底

など



4. 市民ニーズの把握・整理

⑥ 未来へつなぐ環境にやさしいまち（自然環境・ゼロカーボン、環境衛生）

- ・ホテルが生息できる河川環境の整備
- ・里山づくり促進（養蜂活動の継続、みつばち学校の創設）
- ・リチウムイオン電池技術の活用
- ・電気自動車の普及促進
- ・自然景観の維持促進、自然保護の継続
- ・自然を楽しむ施設の整備（カフェなど）、農業体験の拡充
- ・ゼロカーボンにつながる行動の知識醸成（学校での関連授業の拡充、ZEH 住宅への補助等）
- ・水素事業の継続、水素バスの活用
- ・ごみ削減の意識徹底・醸成（こどもへの教育徹底、食べ残し削減等）
- ・ゴミステーション管理の充実（シャッター付きのステーション等）

など



4. 市民ニーズの把握・整理

(4) 審議会委員の意見

富谷市総合計画審議会は、市長の諮問に応じ、本市の総合計画の策定や推進、総合計画に関する重要な事項について調査審議する機関として設置され、学識経験者、関係行政機関の職員、産業、金融各界からの有識者、行政区長等の市民委員の15名で構成されています。

審議会委員の富谷市のまちづくりへの想いや主なご意見をまとめました。

■ 審議会委員のまちづくりへの想いや主なご意見

- 企業誘致だけでなく、その企業で働くために富谷市にきた人には定着して住んでもらえるようなまちづくりが大事である。
- 住んでいく中では高齢化が進んでいくので、医療や保健の充実を図ることが大事ではないか。
- 安心して子どもを育てられる環境を整え、女性も働きながら子どもを育てられるといったことも考えていく必要がある。



- 「子どもにやさしいまちづくり」も大事だが、「高齢者にもやさしいまちづくり」で人と人をつなぐようなまちづくりを行うことが、本当の意味で「オールとみや」ではないか。
- 町内会の会議等の中でも総合計画について市民に理解してもらえれば、皆さんの心も一つになっていくのではないか。

- 縁があって富谷市に会社を移転して10年になる。従業員も富谷市出身の方、富谷市在住である方が増え、安定して長く働いてもらっている。
- 「100年間ひとが増え続けるまち」である富谷市は魅力的なマーケットであり、仙台市からも近いので観光で来るお客様も誘致できると期待している。
- 工場見学など地元企業を知ってもらう機会を増やし、少しでも子ども達の教育というところに携われるのであればありがたい。



4. 市民ニーズの把握・整理



- 富谷市の特徴の1つが、「市民が主役」であるということ。昭和の大合併の時に合併をせず、小さくても自立自尊という道を選んだ、いわゆるシビックプライド「富谷プライド」がある。
- 特徴の2つ目が、「子どもにやさしいまちづくり」を進めているということ。「100年間ひとが増え続けるまち」を目指すうえでは、子どもにやさしいまちでなければ不可能である。
- 特徴の3つ目が、「田園都市」を目指していること。自然と共存しながら成長するということで、まさに富谷市でなければ実現できない部分がある。

- 富谷市の一番の優位点は「市民力の高さ」であるが、目の前に現れているものは一部で、まだまだ沢山の方の市民力の高さが隠されているかもしれない。
- 一人ひとりの力を表面化させていくことができれば、もっともっと「オールとみや」のまちづくりが可能になってくるのではないか。
- 少子高齢化が進む中で、市民の力を最大限発揮する必要がある、今から「協働でつくるまちづくり」に力を入れていくべき。



- 「100年間ひとが増え続けるまち」を目指すには、地域全体を見て、周りの地域との連携についても模索していく政策があってもいいのではないか。
- 土地の利用は個人の問題ではなく、自治体なり国なりで考える問題でもある。今の自然を守る、農地を守るといった視点でもう少し土地の利用について考えていっても良いのではないか。

- 富谷市には伸びしろがあり、これからだと感じている。まちづくりや市民活動には沢山の市民が参加していて活発である。本当に市民力が素晴らしいまちで、他の地域ではあまりないと感じている。
- 私自身このまちに住み続けたいと思う理由の一つが、緑豊かな自然環境である。今年度から大亀山森林公園の活性化に取り組んでおり、富谷市のシンボルとしてもっと沢山の人に来てもらいたいと思っている。



4. 市民ニーズの把握・整理



- 農家が高齢化しているが、後継者がいない。農地を守るためにも色々な意味で若い人の力が必要であり、富谷市にはこういった支援があると分かるものを作ってほしい。
- スポーツ少年団に入っている小学生が、進学する中学校によっては部活が無く続けられない可能性がある。「子どもやさしいまち」を目指すならば、中学校に上がっても続けられる仕組みがあってもよいのではないか。

- 富谷市では「子どもにやさしいまちづくり」を前面に出しており、子ども達の声を直接聞く機会を作って、更にその声を活かす取組も行っており素晴らしい。
- 子どもの声に耳を傾けるということは子育ての基本であり、大きな掌の上で子ども達の話を聞いているという状況でないといけな。い。「子どもにやさしいまちづくり」とは、実は大人がどうあるべきかということ突きつけられているということでもあり、このテーマで一度みんなで真剣に考えてみる必要があるのではないか。



- 「オールとみや」の考えを実践していくには、町内会の役割が非常に大事である。町内会は行政と市民をつなぐパイプ役であり、情報交換会等を通じて富谷市の総合計画の施策を伝えていきたい。
- 町内会の活動についてもっと見える形で訴えていく機会が必要である。他の町内会の色々な活動や取組を参考にしながら自分達の町内会にあったやり方を模索していくことにも繋がると思う。

- 市制施行からの8年で富谷市の基盤が作られ、ポテンシャルも可視化されたので、それをしっかりと分析して夢のある事業を作っていく必要がある。
- 富谷市の一番素晴らしいところは、自然と共存しながらまちが成り立っているところである。大亀山森林公園の展望台からの景色など、本当に素晴らしいものがあるが、多くの市民にとって富谷市の美しい自然を存分に味わえる環境にはなっていない。



4. 市民ニーズの把握・整理



- 地元の金融機関として地方創生への貢献を重要視しており、富谷市においても、特に新規事業者支援等の事業に携わってきた。
- 地域の皆様に何うと富谷市にもまだまだ課題があり、その課題に対して金融機関としてどのように関われるのがポイントであると考えている。今後も富谷市のパートナーと言われるよう取り組んでいくので、相談をいただきたい。

- 富谷市の子ども達は、経済的にも安定しており、地域の方々も教育に熱心であり、学力も高いが、そうなると高校、大学と進むにつれて市外に出ていく可能性が非常に高くなるので、子ども達が富谷市で更に能力を発揮し続けられるようにすることがとても大事ではないか。
- 開発を続けていき、まちに仕事をつくることや、将来的に子ども達が市内で起業して力を振えるような可能性を広げていくことも必要ではないか。



- 私自身子育てをしていて、児童クラブが学校の敷地内にあったり、給食費や医療費の無償化が実施されているなど、富谷市は子どもにやさしいまちであると感じている。
- 一方で富谷市に住んでいながら、富谷市のことについてまだまだ知らないことが沢山あるので、富谷市について勉強し、その良さを周りにも伝えることで良いまちづくりに貢献できるよう、少しでも力になりたいと考えている。

- 富谷市はまちづくりへの学生の参加にも取り組まれているが、若者が具体的に参加できるような仕組みをセットし、しっかりと取組として打ち出していけばよいのではないか。
- 今回の総合計画はこれまで取り組んできたことを継続し、成長から成熟させていくものであるが、市民の皆様に期待を抱いてもらえるものにすることが重要である。



課題 1 産業・観光

- **製造業等の企業誘致による働く場所の確保**
- **市内企業の育成、稼ぐ力の向上**
- **富谷塾等を通じた地域で活躍する人材の更なる育成・起業創業支援**
- **農業の担い手の育成・支援**
- **観光資源を活かした誘客の促進、観光スポットの連携**
- **特産品の生産拡大とブランド価値の向上**
- **伝統と歴史の継承** **など**

5. まちづくりの主要課題

課題4 地域活動・健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化

近年の本市における医療体制は、医療機関の連携・協力により維持されてきましたが、将来的な少子高齢化の影響を視野に、誰もが安心して生涯を過ごせるまちづくりを推進するため、市内における福祉施設や急性期医療災害拠点病院などの拡充を図ることが求められています。

また、健康寿命の延伸に向けた高齢者等の介護予防や居場所づくり（世代間交流）、経験を活かせる活動機会の提供、公共交通の充実、買い物支援など誰もが充実した生活を送れる環境づくりに向けた取組が重要です。

加えて、市民の誰もが生涯を通じて学ぶことができる機会や、誰もが気軽にスポーツに親しみ健康な体づくりができる機会、本市の文化・芸術に親しむ機会や文化活動に参加できる機会などの充実にも取り組むことが求められています。

- 医療・福祉施設の拡充
- 健康づくりの推進
- 生きがいづくりの推進
- 高齢者や障がい者等への支援の充実
- 公民館の（仮称）市民センター化への取組
- 富谷市複合図書館の運営 など

課題5 防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化

近年、大型地震や気候変動に伴い頻発する自然災害や新たな感染症の脅威等から市民の生命と財産を守り、安全に暮らせるまちづくりを進めることが求められています。災害時には地域における助け合いが重要になることから、市民の防災意識を高める必要があります。日々の生活においては、自助・共助・公助を着実に進めていくことにより、コミュニティでの見守り活動などを通じて、犯罪や交通事故の無い誰もが安心して生活できる地域づくりを進めていくことも重要です。

また、年齢・性別・国籍などにかかわらず、市民一人ひとりがまちづくりの担い手として活躍できるよう、多様性を尊重し、さまざまなチャレンジができる環境や、地域で支え合い、地域の発展に取り組むことができる環境を整える必要があります。

- 防災組織の育成促進
- 安全・安心な生活環境の確保
- 男女共同参画の推進
- 多文化共生の推進 など

5. まちづくりの主要課題

課題6 自然環境・ゼロカーボン・環境衛生

本市が有する農地や森林などの優れた自然環境を保全・継承し未来へつなぐとともに、都市機能と自然環境が調和した田園都市を目指して環境にやさしいまちづくりを進めることが重要となります。

また、2015年に国際連合において採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は国際社会共通の目標となっており、本市のまちづくりにおいてもその方向性を踏まえた取組の推進が求められており、ゼロカーボン社会の実現に向けた再生可能エネルギーの普及促進や環境教育、啓発などにも取り組んでいく必要があります。

- 豊かな自然環境の維持
- 大亀山森林公園の活性化
- SDGs や環境問題への対応
- 2050年ゼロカーボンへの取組
- ごみの排出抑制と再資源化の推進 など

課題7 市政運営（市民協働・広報広聴・行財政）

近年の社会環境の変化等により地域の課題や市民ニーズが多様化しています。これからのまちづくりの中で何よりも重要なのは、行政だけでは対応しきれないニーズに対し、市民、団体、企業、行政が協力して「みんなの課題をみんなで解決する」ことであり、市民力を活用した持続可能なまちづくりの実現を目指す必要があります。

また、本市の財政状況を踏まえ、限られた経営資源を有効に活用して、社会環境の変化に伴って多様化する市民ニーズに対応するとともに、将来にわたって持続可能な行財政運営を推進していく必要があります。

- 市民力の高さを活かした協働のまちづくり
- 地区ごとの特性や人材を活かしたまちづくりの推進
- シビックプライドの醸成
- 行政改革の推進
- 戦略的な情報発信
- 市民の声をよく聴き、施策に反映させる体制の充実
- 健全財政運営 など

